

第25回靴下求評展受賞作品

経済産業大臣賞

デザイン部門 岡本株式会社

機械名 Lonati社 SbyS G616 200N

素材名 レーヨンシルク X ラメ糸

作品名『輝くフリンジソックス』

ラメ糸を用いた立体表現です。

秋口などにパンプスと合わせて、女性の方に着用

いただけるデザインを目指しました。

ルーズに履くのがかわいいです。



経済産業省製造産業局長賞

デザイン部門 グンゼ株式会社



機械名 Lonati社 L01E 400N

素材名 ナイロン・ポリウレタン・ポリエステル

「テーマ:「きらりと光る瞳」ネコソックス」
ネコの写真をプリントでなく「編柄」で表現した
クルーソックス

さらに、ネコの瞳にシルバーラメとカラーポリエステル
を編み込むことで、キラりと光る瞳のアクセントを表現
させた。

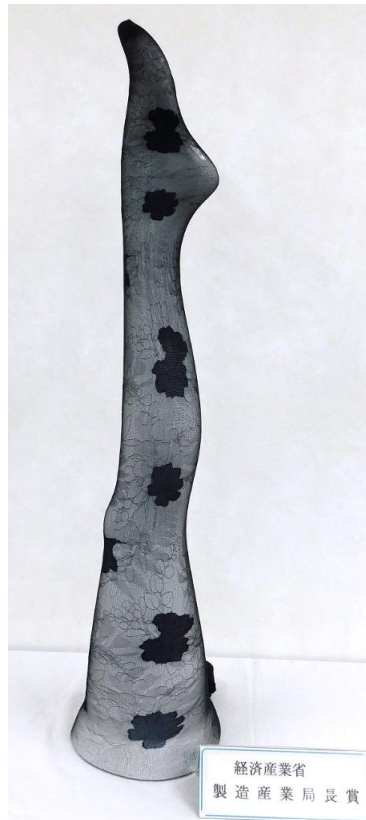
技術部門 グンゼ株式会社

機械名 Lonati社 L01E 400N

素材名 ナイロン・ポリウレタン・ポリエステル

「テーマ:3層構造で浮き出るボタニカル柄」
3ポジション選針可能な柄編機で生み出した
新しい柄表現。

ストッキング生地で透け感のあるベース地には
2つの編組織で2層に重なって見せ、さらにその
上に色系でカットボス編みすることで3層構造に
なり、これまでにない立体的に見えるデザイン
表現を実現させている。



日本靴下協会会長賞

デザイン部門 株式会社ナイガイ



『ハンドメイド風
裏出しステッチ柄』
インターシャ編機の
半回転編みを利用して
斜めに柄糸を飛ばす
事で、“ステッチ柄”と
“スリット柄”を同時に
表現しました。

機械名 コロシオ マジカ156N
素材名 綿・アクリル・ポリエステル

技術部門 日本編物株式会社



機械名 SWG061N2ホールガーメント横編機
素材名 2/64リブサーモ・2/367アクリル毛混
x20/75ロイカ

「靴下の重ね履き」をヒントに「もっと手軽に、本当にあったかい靴下を」と言う思いから作った2重構造の靴下です。2つの靴下が一体化したつくりになっていて片方を内側に入れ込んで履く仕様です。内側と外側を異なる素材の2重構造にすることで、1足で2足分の暖かさがある靴下になります。縫い目のないホールガーメントなので肌にも優しいタッチです。

技術部門 イイダ靴下株式会社



機械名 Lonati社 GK525 4インチ 256N
素材名 表糸 601-綿X40D綿SCY
裏糸 30X75FTYマルロン

デザインは革のブーツをイメージして、革のような質感とゴアラインを革の縫い目のように見せる為に、表糸と裏糸のカラーをあえて反対色を使って編立。踵のゴム部も単色の糸では革のような質感に納得できないのでDCYを染めて使用。またリアルさを求めてリング部分が表側に出ないように足裏に移し、ディスプレイ時にインスタ映えするように配慮して作りしました。

日本靴下工業組合連合会理事長賞

デザイン部門 福助株式会社



機械名 Lonati社 L01E 200N
素材名 ナイロン・ポリウレタン・ポリエステル

編立に高い技術力が必要な大きな大きな擬似ネット柄に繊維幅が細いため切れやすく、編み立てるのが難しい300切のラメ糸を使用しゴージャスで見栄えのある1足に仕上げています。通常、ラメ糸を使用すると穴が空きやすくなってしまいますが、高い技術力により強度基準を満たすよう編立られています。繊細なゴールドドラマが脚元を華やかに演出し、大きなネットが女性らしさをアップさせてくれます。

デザイン部門 株式会社ナイガイ



機械名 K192N
素材名 スイカ部分
表糸110T・WN
裏糸 テグス
ヒマワリ部分
表糸 テグス・綿
ブークレ1/33WN

「HIMAWARI(ひまわり+スイカ)」
★リバーシブルで楽しめる“立体感にこだわった”柄出し★表側スイカ、裏側ヒマワリで2種の表現が楽しめる、夏を満喫出来る遊び心のある靴下です。

技術部門 福助株式会社



機械名 永田精機
104LJ
素材名 無染色
メリウール

『すべて天然繊維で。土に還る靴下』をコンセプトに作り上げました。素材は無染色のナチュラルカラー素材を使用し、染色工程を省けることにより、大量の水や熱と言ったエネルギーの削減にも繋がります。商品はゾッキで仕上げ、爪先の縫製糸はシルクの糸で仕上げ、最後まで天然素材にこだわった靴下です。

特別賞

デザイン部門 株式会社ナイガイ

機械名 KP200
素材名 綿・テグス

「快適 浴衣用パイル足袋」
◆モダンな浴衣や着物に合わせて、着こなしが楽しめる華やかなデザインの足袋ソックス
◆暑い夏に少しでも涼を感じるデザインをめざし、背景柄が透け、水の中を金魚が泳いでいるイメージを表現しました。
◆つま先かかとをパイルにしてクッション性をもたせ、下駄や草履をはく際、指股が痛くなったり、歩き疲れやすいお悩みを解決したいと開発しました。履ききれない下駄や草履を快適に履いていただける足袋ソックスです



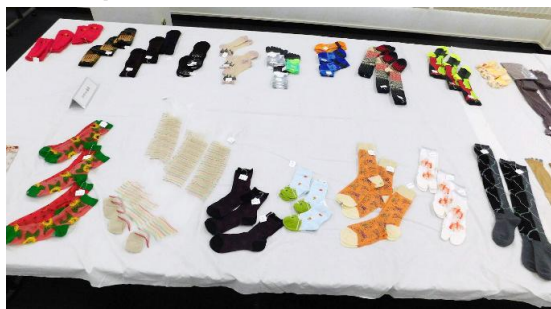
技術部門 株式会社ホリホック

機械名 永田精機 K式144N
素材名 綿・アクリル・ポリエステル・ポリウレタン・ナイロン

2種類のパイル編みで編成され、そのパイルが左右の足の形状に合わせられた靴下です。踵までは裏糸1本と地糸32/ー3本で編み、その地糸を柄パイル編みにしてアキレス腱やくるぶし等、各部位をゆったりとした編地で保護をしています。踵以後は特殊な編み方をしており、地糸3本のパイル編みから平編みに変え、ここに別の32/ー2本を足し合計5本にし、その足した2本のみを足底の接地面の形状に合わせた柄でパイル編みすることで、クッション性に加えて耐久性も高く、デザイン性も高い靴下です。

出品作品

デザイン部門



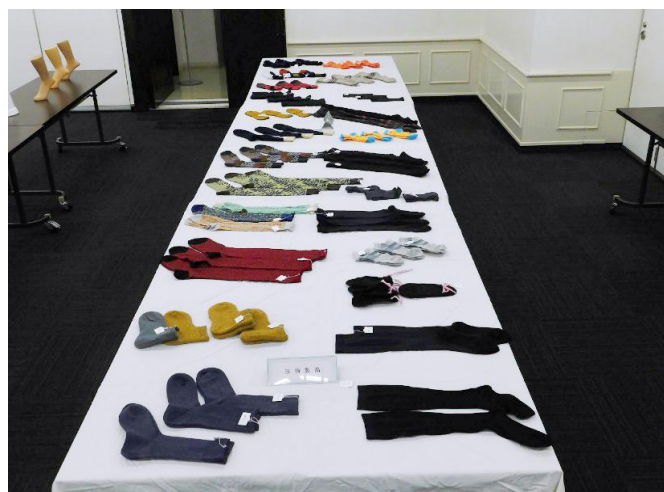
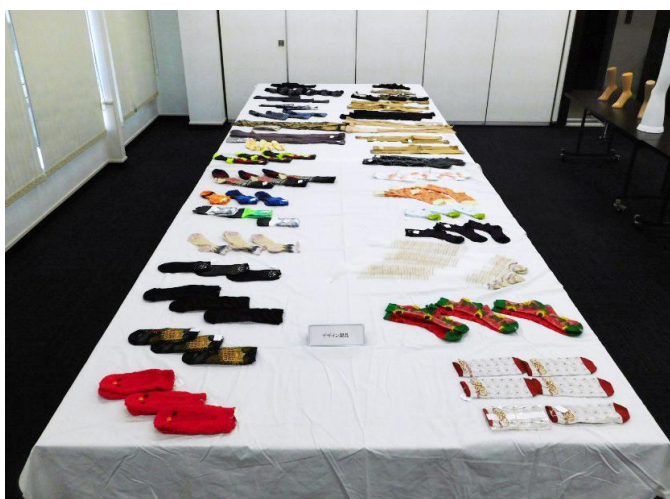
技術部門



応募総数58作品

デザイン部門 34作品

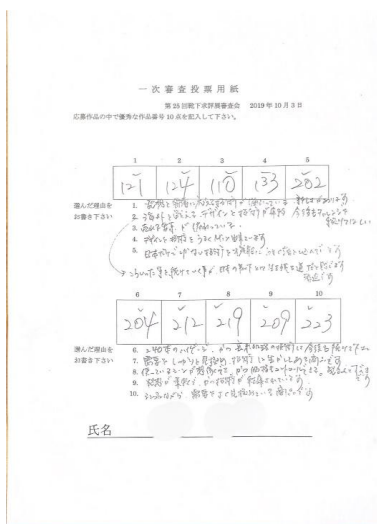
技術部門 24作品



審査風景



審査投票用紙（今回より記名式になりました）



今回も審査員は外部より4名（日本百貨店協会、文化服飾学院、織研新聞社、日本繊維製品品質技術センター・キューテック）日本靴下協会会員企業より8名、日本靴下工連より1名、計13名の審査員で、審査委員長は工連喜多理事長です

一次審査

13名の審査員が、出展作品の紹介文の資料を基に1時間審査され、各審査員がそれぞれ10作品を選ばれ投票用紙に記入され提出頂きました。事務局にて集計し、4票以上の投票があった22作品が二次審査に進みました。

二次審査

一次審査で選ばれた作品を足型トルソーに履かせて、柄とか特徴が良く見えるように飾りつけをして審査。審査員からそれぞれ5点を選んで投票していただき二次審査をしました。

二次審査で選ばれた作品の内、得票数の多い作品の順に中央の台に展示。今回は最高得票の7票を得た作品が3点あり決選投票になり、大臣賞と1点と製造産業局長賞2点が決定いたしました。

続いて日本靴下協会会長賞は6票を得た3点が決定し工連理事長賞は5票の1点は決まり、残り2点を3作品で決選投票になり2点が決定。特別賞2作品は文化服飾学院ならびに織研新聞社の審査員よりそれぞれ1点選ばれ各賞が決定いたしました。

尚、2次審査終了後に、今後の求評展の在り方について、各審査員より活発なご発言をしていただき、今後の運営に役立ててられる貴重なご意見を頂き閉会いたしました。